

VOL. 134

ウクライナ、アフガニスタン、
イエメン、エチオピア、ミャンマー：
難民・国内避難民支援事業
ジンバブエ：
教育環境改善支援事業
世界のADRAから

世界がわかる。ADRAがわかる。

ADRA

EST.1985

News

2022
12



※今号のADRA Newsは公益財団法人ウエスレー財団様の助成を受けて発行しております。



世界で増え続ける難民・避難民 皆さまと共に届ける命をつなぐ支援

写真は中央がウクライナ 右上からアフガニスタン、
エチオピア、イエメン、ミャンマー

ADRA Japan 事業マップ

ADRA Japanは、約120の国と地域に支部を持つ世界最大規模の国際NGOであるADRAの日本支部です。人種・宗教・政治の区別なく支援活動を行うことをモットーに、海外および日本国内の各地にて様々な活動を行っています。



UKRAINE ウクライナ

人道支援事業

→ p.4-5



AFGHANISTAN アフガニスタン

地震被災者支援事業

食糧危機支援事業

→ p.4-5

NEPAL ネパール

教育支援〈ナマステ基金〉事業

ADRA Japanは、経済的な理由などから学校に通い続けることが難しい家庭の子どもたちに、学資支援を届けています。皆さまからのご支援のもと、今年度は66人の子どもたちを支援しています。25年以上続けているこの活動で、多くの子どもたちが優秀な成績で学校を卒業し、中には村の保健師として働いている卒業生もいます。今後、支援を届ける子どもを100人まで増やしたいと考えています。新規のご寄付や、ご寄付の継続をお待ちしております。



未来に向かって勉強に励む少年



MYANMAR ミャンマー

国内避難民支援事業

→ p.4-5



JAPAN 日本

令和4年台風15号被災者支援事業

今年9月下旬に発生した台風15号による大雨により、主に東海地方で、河川の氾濫や家屋への浸水、土砂崩れなどの甚大な被害が発生しました。ADRAはすぐに情報収集と支援調整を行い、現地からの要請のもと、備蓄していた古タオルのぞうきんや送風機などの物資を静岡県袋井市に支援しました。また、被災によって、精神的にも肉体的にも疲弊している住民の方々に足湯を提供し、ホッとするとともに過ごしていただきました。



現地の方(中央)から被災状況を聞き、必要な支援を検討



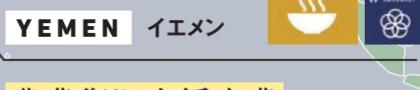
ご心労が続く方々に、足湯でホッとできる時間を提供



ZIMBABWE ジンバブエ

教育環境改善支援事業

→ p.6



YEMEN イエメン

農業復旧支援事業

→ p.4-5



ETHIOPIA エチオピア (南スーダン難民支援)

ガンベラ州のクレ難民キャンプにおける衛生事業

→ p.4-5



VIETNAM ベトナム

異文化の中で働く難しさを緩和し、家族を支える働き世代をサポートする労使関係改善のための文化的教育事業

→ p.7

ご紹介している事業は皆さまからのご寄付のほか、以下の機関・団体から助成や支援を受けて実施しています(以下敬称略)。
●日本NGO連携無償資金協力(ジンバブエ)
●特定非営利活動法人ジャパン・プラットフォーム(アフガニスタン、イエメン、ウクライナ、エチオピア、ミャンマー)
●公益財団法人トヨタ財団(ベトナム)

● ADRA International (世界本部)

● ADRA Japan 実施事業
■ 世界のADRA支部がある国と地域

ADRA JAPANの活動

難民・国内避難民の数が過去最多の2022年

皆さまからのご支援により命を救われている人々がいます

世界で起きている現実を見ると、この1年、自然災害のみならず戦争や紛争が相次ぎ、多くの命が奪われました。そして、それまでの平穏な生活を奪われ、家を追われた方々の数は世界で初めて1億人を超えました。一方、そのような方々に想いを寄せ、力になりたいと動いた方の数も大きく増え、活動を力強く支えていただきました。皆さまからの温かいご支援によって、まさに命を救う活動に取り組んでいることを心から感謝いたします。今回のADRA Newsでは、ADRA Japanの活動地からスタッフの声を交えてご報告いたします。



ウクライナにおける食料セットの配付。中には小麦粉やパスタ、調味料などの食材や日用品が入っている。

UKRAINE ウクライナ



ADRAウクライナ支部で働くアンナ

「電話の向こうに爆発音が聞こえるんです。だから、早く安全な場所に避難してくださいと伝えます。それでも人々は電話を切りません。地下に逃げたまま、電話が切れてしまうからです。そうやって電話をくれた方々に、現金を渡す支援を、3月から週に1回続けています。その資金源は、皆さまからのご寄付です。危険な地域から避難するための費用や、生きていくために必要なものの購入費用となり、誰かの命を救い続けています。この活動に関わっていることを、心から誇りに思います」。こう語るの、ADRAスタッフのアンナです。ウクライナ人で

あるアンナは、2014~2015年にウクライナ東部の国内避難民の支援に携わったのち、7年ほどドイツで過ごしていましたが、2022年2月の事態を受けて、すぐにウクライナに戻ることを決めました。アンナは1日に何件もの電話がかかってくる中、助けを求める一人ひとりの声と、すぐに支援に動ける各地のADRAボランティアメンバーをつなげる体制を作り、その後、人々がその時一番必要なことに活用できる現金給付の活動をスタートしました。すでに8万6千人を超える方々がADRAの現金給付によって命をつないでいます。

AFGHANISTAN アフガニスタン

深刻な食糧不足に大地震が重なり、さらに氷点下20度にもなる厳しい冬が来るアフガニスタンでは、人口の約61% (2440万人) が今を生き抜く支援を必要としています。ADRAスタッフのハミッドは、「3日間なにも食べていない家族に支援を届けたことがあります。すでに1人の幼い命が失われていましたが、残る4人の子どもた

ADRAアフガニスタン支部で働くハミッド



ちが倒れる寸前に、3か月分の食料と暖房器具を支援できました。父親からの感謝の言葉は印象的でした」と話し、さらなる命を救うべく邁進しています。

YEMEN イエメン

イエメンでは長期化する紛争の影響で農業が荒廃し、国内需要の20%しか農作物を生産できていません。食糧の価格も高騰し、高齢者や女性、子どもなど、国民の半数以上が飢餓の危機にさらされています。ADRAは農業の回復を目指し灌漑の復旧などに取り組んでいます。ADRAスタッフのムルタザは「これまでの活動で、乾



以前使用していた灌漑用エンジンが使えるか確認

いた土地に緑が戻り、家族が幸せになる姿を見てきました。支援によって命を救われたという方もいます。人々の生活に変化をもたらせる喜びは大きい」と誇りをしています。

ETHIOPIA エチオピア

エチオピアには、南スーダンから逃れてきた40万人の難民と、国内紛争や干ばつなどの影響で支援を必要としている人が約2000万人います。難民支援を担当しているADRAスタッフのビニヤムは「命がけで避難してきた人々が、感染症などの危険からも命を守るように活動できていることを誇りに感じています。やりがい

ADRAエチオピア支部で働くビニヤム



感じる瞬間はたくさんありますが、特に、障がいがある存在が無視されてきた方の住まいの横にトイレを設置できたときの達成感は大きかったです」と話しています。

MYANMAR ミャンマー

ミャンマーでは昨年2月のクーデター以降、身の安全のために家を離れ、安心して眠れる場所や食料を持たない国内避難民が増え続けており、その数は現在約144万人に上っています。ミャンマー東部にあるカレン州には、特に新規避難民の流入が多い地域があり、そこには妊婦、障がい者、高齢者、重度の傷病者、5歳未満児を抱える家族も避難しています。ADRAは、この地域全体に、食料やマラリア感染予防のための蚊帳、簡易テントの屋根に使う防水シートの配付に取り組んでいます。活動の最前線にいるADRAスタッフのミストウーはこう語ってくれました。「人々を助ける活動に誇りを持っています。避難生活を続けている方が、竹で作った仮小屋に住み、食料を切実に必要としている様子を目の当たりにした時は、いたたまれない気持ちになりました。避難している方全員を支援したいです」。



支援対象者への説明会

安心できる場所を失ってしまった方々にとって、私たちの支援は命綱です。ADRAは今後も、皆さまからの温かいご支援のもと、一人ひとりに寄り添い、命をつなぐ支援を届けてまいります。

クレカ寄付ページ

「【緊急支援】海外」
をお選びください



ZIMBABWE ジンバブエ

すべての子どもに教育を!
これまでの経験を活かし新天地にて教育支援を開始

ADRAは、教育を満足に受けることができない子どもが多いジンバブエで、9年に渡り、地域の方々と学校環境の改善支援に取り組んできました。活動した地域では、天候に左右されない校舎で学べるようになった子どもたちの笑顔があふれ、大人たちも、子どもたちの未来のために、より良い学校づくりに取り組めるようになりました。

しかし、ジンバブエでは未だに多くの子どもたちが満足な教育を受けることができていません。ジンバブエの北西部にあるニャミニャミ地区も、教育環境の整備が遅れている地域です。政府の支援が届かない中、地域の学校の約半分は、住民たちの手で作られた「サテライトスクール」と呼ばれる学校で、簡易的な設備しかありません。

丸太で支えられたかやぶき屋根がある教室はまだよいほうで、木の下に机を並べただけの場所もあります。雨や砂ぼこりによって授業ができなくなることもしばしばあり、丈夫な壁もないので、野生動物の接近によっても授業が中断してしまいます。

348世帯を対象に行った調査では、経済的な理由から学校に通う

ことができていない学齢期の子どもたちが200人いることもわかりました。

ADRAは、これまでの教育支援の経験を活かし、教育省や地方行政との話し合いのもと、3つの学校で、地域の住民の方々とともに、校舎や職員棟の建設、学校開発委員会への研修、学校に通うことができない子どもへの特別学級の開催、教育啓発等に取り組んでいくことにしました。

各地域では、住民の手によってすでに集められていた砂や石に、皆さまからのご寄付・助成金によって購入したセメントを混ぜ合わせて、レンガ作りが進められており、ADRAの技術スタッフの指導のもと、校舎がだんだんと形作られはじめています。

先日、行政職員による視察があった際には、「住民の手で作られているとは思えない。質の高さに驚いた」というコメントもいただき、この活動に対する期待がうかがえました。

ADRA Japanのスタッフがこの地域の子どもたちにはじめて会ったときに、「私たちはどこから来たと思う?」と聞いてみると、子どもたちから出てきた答えは「ハラレ!」「カリバ!」など、ジンバ



授業はかやぶき屋根と柱だけの教室で行われている



ADRA Japanスタッフと子どもたち

ブエの都市の名ばかりでした。少なくとも外国の地名があがるかと想像していましたが、私たちが思う以上に、日本ははるか遠くにあり、想像もつかない場所のようです。遠い国からでもしっかりと寄り添い、私たちの活動が少しでも子どもたちの良い未来につながるように、日々考えながら取り組んでまいります。どうぞ温かいご支援をよろしくお願いいたします。

クレカ寄付ページ



「[ジンバブエ] 教育環境改善支援など」をお選びください



世界のADRAから

約120か国と地域に支部を持つADRAは、世界各地で活動しています。数ある活動の中から、一部をご紹介します。

PAKISTAN パキスタン

国土の3分の1が水没する大洪水。命をつなぐ食料を配付

今年8月、パキスタンで大洪水が発生し、国土の3分の1が水没、1,731人が死亡、12,867人が負傷、228万棟の建物が全半壊という被害があり、被災人口は3,300万人に及びました。

ADRAは皆さまからのご支援のもと、この事態に迅速に対応し、9月初旬には特に被害の大きかったパキスタン南部のシンド州で、支援の緊急度が高い460世帯(2,760人)に小麦粉、豆などの食料セットを配付しました。生活のすべてが流され、途方に暮れていた人々は、食料セットを受け取ると「ありがとう!」と繰り返し、笑顔を取り戻しました。今後も必要な支援を続けていきます。



支援を最も必要とする方々に支援物資を配付



支援物資を受け取る女性。一家族15日分の食料が入っている



VIETNAM ベトナム

異文化の中での生活と職場の理解を手助けするハンドブック完成

海外で働くベトナム人は数十万人おり、今や日本でも大切な労働力となっていますが、母国と異なる慣習や労働環境のため、多くの労使問題などが発生しています。

ADRAはこの問題が少しでも軽減されるよう、日本や韓国での生活や労使問題を体験してきた労働者や企業へのインタビューなどを行い、それぞれの文化や職場に適應するためのアドバイスをまとめたハンドブックの作成を進めてきました。この度、ハンドブックが完成し、これから日本や韓国で働こうとしているベトナムの方への配付を開始しました。「これを見て、疑問を解消しながら生活して働けそう」などと期待されています。



ハンドブックの内容を確認する先生と生徒



日本版(上段)と韓国版(下段)のハンドブックを作成

ADRA Japanを
支えてくださる方
をご紹介します!

アドラの
チカラ



水野谷 優さん

ユニセフ NY本部 データ分析
セクション 教育データユニット
チーフ・シニアアドバイザー

—ADRA Japanをお知りになったきっかけは何ですか?

1993年ごろ、ADRA Japanがネパールの人形劇団チームメンバーを探していると、セブンスデー・アドベンチスト教会の教会員である同級生が教えてくれたことがきっかけです。

—ADRA Japanとの関わりについて教えてください。

1993年のベトナム、1994年と1996年のネパールのタディツアーに参加しました。その後もネパールの人形劇作成などお手伝いしました。2000年には、ADRAの歯科衛生プロジェクトをバヌアツですることとなり、そのお手伝いをさせていただきました。

—ADRA Japanの魅力について、ADRAと関わっていて良かったと思う時があれば、教えてください。

ADRA Japanの母体はセブンスデー・アドベンチスト教会なのですが、他宗教の大学生や社会人にも広く窓口を開放していて、色々な学びの機会を与えてくれている事が大きな魅力だと思います。私はクリスチャンではないのですが、大学生の時にスタディツアーに参加させていただいて、その後の青年海外協力隊、ユニセフで仕事するといったキャリアにつながりました。ADRAのスタディツアーに参加して、発展途上でボランティアの経験をし、開発の世界で仕事をされている方に出会えたのが人生のターニングポイントとなりました。

—まだADRAのことをご存じない方へのメッセージをお願いします。

ADRAは世界各国で、緊急災害支援や社会開発のお手伝いをしています。また、日本国内でも阪神大震災や東日本大震災などの緊急支援でも多くの人々を援助しました。皆様方のサポートなくしてこのような活動はできません。感謝の念を申し上げるとともに、今後ともADRAをサポートしていただくと嬉しく思います!

—ADRA Japanへのメッセージをお願いします。ADRA Japanは私の原点ですが、国連に入った後でも、世界各国でADRAの活躍を目にしています。今後ともますますのご活躍を期待しております!

色々な寄付のかたち

ADRA Japanが実施する活動へのご支援は、寄付やボランティア、お知り合いへの活動の紹介など、さまざまな形がございます。また、ご寄付に関しましても、お金でのご協力だけでなく、物品や金券によるご支援も受け付けております。

1

お買い物によるご支援

Rakutenをご利用の際、こちらでご案内のページよりRakutenにアクセスしてお買い物をしていただくと、ご購入金額の0.5%がADRA Japanへの寄付になります。



2

物品でのご寄付

お宝エイドの活動を通じた、宝飾類、ブランド品、絵画、古銭、メダル、ブランド食器、カメラ、楽器などの骨董品によるご寄付です。送料無料で、自宅等ご指定の場所へ業者が集荷に伺います。



3

在庫処分で国際協力

アパレル商材、雑貨、食品など、処分に困っている在庫をADRAへへの寄付に変えられる在庫寄付が始まりました。余っていたチームTシャツが3,500円の寄付になった事例も。お気軽にお問い合わせください。



4

12月31日までの期間限定 ふるさと納税でご寄付

ADRA Japanは、東京都渋谷区の「ふるさと納税」の寄付先団体に採択されました。12月31日までの寄付は、決済手段に関わらず2022年の取り扱いです。



今年も一年ありがとうございました

今年は特に多くの方々からたくさんのご支援をいただきました。心から感謝申し上げます。皆さまの想いを世界中にお届けすることによって、多くの方々の喜びを回復し、未来への希望を育むことができています。来年もADRAは支援を必要としている方々、一人ひとりに寄り添った活動に努めてまいります。



事務局長 青木泰樹

お問い合わせ先

TEL: 03-5410-0045 E-mail: support_adra@adrajpn.org

いただいたご寄付は税制優遇の対象となります。

ホームページ: <https://www.adrajpn.org/>



応援メッセージ

ADRAのことを知ったのは20年程前です。その時は、何か少しでもお役に立てたらという単純な思いからADRAを応援し始めました。自分が思っていたより、はるかに広い支援活動が世界各地で行われていることを、ADRA Newsから知ることができうれしく思います。
(小宗 順子さん/ADRAフレンド)

惨禍に喘ぐ世界の中で、命と希望をつなぐ働きを地道に続けるADRA。その小さな細胞のひとつになりたくてADRAフレンドの端に加えていただきました。年金受取通帳から毎月引かれる形での寄付はささやかすぎて世界に対する申し訳なさが軽くなるわけではありませんが、それでも少しは自分を許せるかな。
(執行 信昭さん/ADRAフレンド)

ADRA Japanは「人間としての尊厳の回復と維持」を実現するため、キリスト教精神を基盤として、人種・宗教・政治の区別なく世界各地で国際協力活動を行っています。

ADRA News 134号 2022年12月1日発行

発行人 青木 泰樹
発行 特定非営利活動法人 ADRA Japan (アドラ・ジャパン)
〒150-0001 東京都渋谷区神宮前1-11-1
TEL: 03-5410-0045 FAX: 03-5474-2042
E-mail: support_adra@adrajpn.org
Facebook: adrajapan Twitter: ADRA_Japan
Instagram: adra_japan

団体概要

法人名 特定非営利活動法人 ADRA Japan
所在地 〒150-0001 東京都渋谷区神宮前1-11-1
(JR原宿駅 徒歩5分、東京メトロ明治神宮前(原宿)駅 徒歩2分)
代表者 柴田 俊生(理事長)
事務局責任者 青木 泰樹(常務理事/事務局長)
創設年月日 1985年3月30日



ADRA

デザイン: 細山田デザイン事務所